

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2023.01.No305

1月号

目次

会長新年挨拶「新年に望み」……	1
全国大会報告……	2
まちづくりフォーラム報告……	4
道士会の動き……	6
Coffee Break……	7
information……	8

URL <https://www.h-ab.com/>



新年に望み

一般社団法人北海道建築士会 会長 高野 壽世

新年 明けましておめでとうございます。新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症がなかなか終息しない中ではありますが、会員の皆様には、すがすがしい新年をお迎えのことと思います。

振り返ってみますと、2020年以降は、コロナ禍に翻弄された制約の多い3年間であります。そのような中、本会にとって昨年一番の出来事は、なんと言っても3年ぶりの全道大会の開催であります。

本会にとって会員が年に一度、一堂に会することができる唯一の機会であります全道大会は、2018年の士別大会を最後に、翌年の函館で開催しました全国大会北海道大会の後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため開催することができませんでした。昨年は、年明け早々からコロナ禍の第6波、そしてオミクロン株による第7波が猛威を奮うという環境となりましたが、変異株の毒性が弱くワクチンの接種率が高いこと、あわせて社会経済活動の推進などの観点から、各地でイベントの再開も容認されるという状況となり、そのわずかな光明を縫う形で、本会創立70年の節目を記念する全道大会として空知大会を開催することができました。空知支部の皆様には、コロナの動向を見ながらの準備に気の休まる暇もなかったことと思いますが、ぶれることなく準備を進めていただき心から感謝申し上げます。お陰さまで、予想を超える多くの皆様の参加をいただき、盛会のうちに開催することができました。やはり、リアルに参加し、学び、交流するというWebでは体感できないのが全道大会であり、私たちにとっては「ケ」ではなく、年に一度の「ハレ」の祭典なのだ改めて実感した空知大会でありました。

今年の全道大会は、9月1日から2日にわたり田園風景の広がる深川市を中心に北空知大会を開催いたします。皆様には、SDGsで掲げる「住み続けら

れるまちづくりを」を見据えた北空知支部のまちづくりへの熱い思いを感じていただければと思っております。是非とも多くの皆様が足を運んでいただきますようお願いいたします。

一方、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、木材需要の約4割を占める建築物分野の木材利用の促進を目指し、一昨年、建築物等の木材の利用促進に係わる公共建築物等木材利用促進法が改正され、昨年は、エネルギー消費の約3割を占める建築物分野での省エネ対策として建築物省エネ法が改正されました。これは、省エネルギー基準適合義務の対象外である住宅及び小規模建築物の省エネルギー基準の適合を2025年度までに義務化するとともに、省エネルギー基準の段階的な水準の引き上げを遅くとも2030年までに実施するものです。さらに建築基準法の改正のなかで、木材利用の促進のための防火、構造などの規制について合理化がなされたところです。本会では、これら社会が求めている建築物の新しいクオリティの実現に向け、会員の皆様並びに建築士をしっかりと支援していく所存であります。

今年は、新型コロナウイルスの感染状況に注意を払いながらも、優先度の高い事業から少しずつ従前に戻していきたいと考えております。なかでも、「地域の誰もが知っている。なくてはならない建築士会」を大きな眼目として、本会のPRや会員等の資質向上、地域住民との協同に係わる支部等の新たな事業について支援する、特別活動費助成事業の拡大を進めるとともに、まちづくり委員会をはじめ各実行委員会の本格的な活動の再開ができればと思っております。

皆様のご理解、ご支援を引き続きお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

あきたにて ～三年ぶりの全国大会～



総務・企画委員会副委員長 菊地 義紀 (札幌支部)

10月14日(金)に第64回建築士会全国大会「あきた大会」に参加しました。大会前日13日は連合会理事会や全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会が行われ、14日大会当日は、全国各地から会員参加登録約2,600名、関係者を含め3,000名近い参加があり、あきた芸術劇場ミルハスで3年ぶりの対面式で盛況に開催されました。

会場の「あきた芸術劇場ミルハス」は、新たな秋田の文化芸術の創造拠点として、2022年6月、秋田市千秋明徳町の秋田県民会館跡地に開館し、喫煙所で聞いた話ですが、秋田県と秋田市が共同で建設した全国でも例のない文化施設だそうです。



あきた芸術劇場ミルハス

午前は各部会・委員会セッションが行われ、札幌支部青年委員会が北海道代表としての発表もあり、青年委員会セッション(地域実践活動発表会)に参加しました。全国で展開している青年建築士の活動をブロックごとに発表をし、北海道建築士会の「WEBアプリ パズルで住まいを考えよう!」が見事に「優秀賞」&「連合会青年委員会賞」の二冠達成という快挙を成し遂げました! 青年委員へ敬意を表すると共に、今後の活動と更なる事業の発展に期待をしたいところです。

午後からの記念対談は『秋田杉、そして建築の挑戦』～「“秋田発”世界標準の大学」を支える「美しすぎる図書館」～とした演題で、国際教養大学理事長・学長モンテ・カセム氏、国際教養大学図書館設計者 仙田 満氏の対談形式で行われました。秋田市には偏差値は東大並み、就職率100%のグローバルスタンダード大学である国際教養大学があります。その大学にある24時間365日開館している「中島記念図書館」についてのお話でした。この図書館は、RC造の中に木構造を取り入れた混構造で、段状書架と傘型屋根が特徴の建物で、「ブックコロセ

ウム」をテーマに安らぎのある空間で学習意欲を喚起させるそうです。日本の三大美林とされる秋田杉を使った屋根は秋田の雪対策で落雪屋根になっており、またその秋田杉は市場流通材を使用し、ハイサイドライトや伝統技法を用い、繊細で奥行きのある空間を演出しているとのこと。秋田にとってこの大学とこの図書館が「シビックプライド」であることをよく理解できる対談でした。

大会式典も終了し、大交流会は秋田キャッスルホテルで行われました。秋田は米どころ&酒どころということで、塩むすびが各テーブルにあり、日本酒の飲み比べもできました。思いのほか参加者も多くて、とても楽しく盛り上がることができました。コロナ禍での大会開催は本当に大変だったと思います。その状況の中で、私たちを温かく迎え入れてくれた秋田建築士会の皆様には心から感謝します。

翌日は毎度恒例となっている有志?数名での「勝手にエクスカッション」は、横手市の「道の駅さんない」にて、いぶりがっこを爆買い(正直、このたび秋田にて「いぶりがっこ」の美味しさに衝撃を受けました!)その後、増田の伝統的建造物群保存地区「内蔵の町」を見学、続いて「みちのくの小京都角館」にて武家屋敷通りを散歩しました。3日目の夜は「郷土料理 味治」にて、比内鶏、きりたんぼ、ハタハタ、等々、秋田の全てを堪能できましたが、さすがに毎日飲みっぱなしだったので、メインの酒は思うように進まず…



佐藤又六家住宅(国指定重要文化財)

16日(日)の最終日は、男鹿まで足を延ばして「なまはげ館」を見学。ラストは吉田輝星選手の出身校でもある金足農業高校の近所にある、国指定重要文化財「旧奈良家住宅」で締めくくりました。来年の「静岡大会」も楽しみです。

コロナに負けず！W受賞！ 建築士会全国大会秋田大会開催

(公社)日本建築士会連合会青年委員 近藤 真人 (小樽支部)



令和4年10月14日金曜日、秋晴れの中、第64回建築士会全国大会あきた大会が開催され、大会式典、本大会会場の「あきた芸術劇場ミルハス」は、芸術文化の拠点として2022年6月、秋田市千秋明德町の秋田県民会館跡地に建設して開館したばかりの建物です。秋田県と秋田市が共同で整備した全国でも例のない建物で、「千秋の桜」をテーマに国指定伝統的工芸品の大館曲げわっぱ、樺細工、川連漆器を組合わせて秋田の風景を表現した壁の装飾も一見の価値がありました。

連合青年の担当行事、前日の全国建築士フォーラム、大会当日の「地域実践活動報告会」は隣の建物にて秋田市文化創造館で開催されました。1967年に秋田県美術館として建築、その後保存活動と小杉栄次郎先生（秋田公立美術大学教授、コードアーキテクト代表）にてリノベーションが施された建物にて行いました。フォーラムは秋田の街歩きの後、小杉栄次郎先生と東京藝術大学建築科准教授、RFA主宰の藤村龍至先生のトークセッションで締めくくり各々が持つ街の魅力や価値観について熱いトークが繰り広げられました。まちづくりに精通した2名の講師の色々な観点から「思い」や「熱意」が伝わりとても刺激になったかと思えます。



(藤村龍至先生と小杉栄次郎先生と連合山本委員長)

大会当日の「地域実践活動報告会」私の担当は当日投影するPPT作成とその操作でした。目立って登壇することはなかったのですが、北海道陣営の皆様から、熱い視線を受け((笑))運営いたしました。

全国5ブロックの地域実践活動の報告があり、各ブロック選抜して選ばれてこの場にて全国に自分たちの建築士会活動をPRして知ってもらうための場で北海道ブロック札幌支部「WEBアプリ パズルで住まいを考えよう！」が見事!!! 優秀賞と連合青年委員長賞のダブル受賞をする！前代未聞の快挙を成し遂げました。

他のブロックも発表内容、プレゼン力もさることながら、札幌支部小林青年委員長の熱意と伝達力、それ以上に、**全国にアプリを提供し使ってほしい！**

この一言が会場にいる全員の心を動かし感動の渦に巻き込みました。

小林委員長本当にありがとうございます。お疲れ様でした。札幌支部、それに関わった方々にも敬意を表します。

これぞ「地域実践活動報告」が「全国実践活動」の切り札となった事は間違いなく、現在東海北陸ブロックの福井県から早速、活用したいと声が上がっていると聞いております。本当に嬉しい限りで、連合青年委員になって良かったと思う瞬間でもありました。



(山本道善委員長から連合青年委員会賞授与)

自分の役割を終え、参加者として本大会に参加して大懇親会にも参加して、全国の建築士会の方々とも交流出来て、有意義な秋田の滞在でした。

来年は日本建築士会連合会青年委員として任期最後の「全国大会静岡大会」です。今回の経験を活かし来年は、さらにステップアップした企画にて全国の皆様を迎え入れたいと考えます。



(全国から集まった日本建築士会連合会青年委員)

まちづくりフォーラム in 石狩



まちづくり委員会委員 酒井 一 誠 (石狩支部)

サケやニシンなどの産業で発祥した「石狩市」は、花川地区の宅地造成や石狩湾新港・工業団地の開発とともに急速な発展を続け、近年は洋上風力発電の誘致や大型小売チェーンの進出など更なる可能性を秘めた都市へと成長を遂げてきました。

これからのまちづくりは、市外の方でも「住みたい」と思うような“魅力あるまち・いしかり”であり続けることが求められています。

まちづくりフォーラムは地域のまちづくり活動にふれ、今後のまちづくりへのヒントを見つける「場」となることを目的に開催しています。



「円形校舎 旧石狩小学校」

午前中の「まちあるき」では、石狩発祥の地である本町地区を見学しました。まずは円形校舎の旧石狩小学校。1956年（昭和31年）に北海道で初めての円形小学校として建設されました。二階建ての校舎となります。2020年（令和2年）に閉校となるまで64年間ものあいだ小学校として使われていました。円形校舎は廊下や壁、建設費用、建築面積、などが軽減される特長があり、風光の出入りが良く、教室は扇形で教員と生徒の距離が近く、教員は全体を見渡せる利点がありました。しかし、教室が扇形なので机などの配置が難しく、生徒の増加に対応しにくい、非常時の通路が中央の階段に限定されるなどの理由で円形校舎が少なくなっていました。



「旧石狩小学校 教室内」



「旧長野商店」

石狩市で現存する最古の木骨石造建築物（外観は石造りですが、内部に木の骨組みがあります）。店舗は明治27年築、石蔵は明治10年頃築と推測されています。長野商店は、越後（現・新潟県北蒲原郡聖籠町）出身の長野徳太郎が、明治7年に創業した商店で、石狩町の繁栄を現在に伝える数少ない建物です。店舗、石蔵あわせて、長さ約81cm・高さ約30cm・厚さ約17cmの札幌軟石が920個あまり使用されています。



「砂丘の風資料館」

砂丘の風資料館2階には、5000年前から300年前にかけての遺跡、石狩紅葉山49号遺跡がテーマになっており、4000年前のサケ漁の漁具を中心に、縄文時代のサケ漁と木の文化について展示しています。この展示の目玉は「柵」です。支柱と組み合わせて使うサケを捕る仕掛け「エリ」で、この資料館でしか見ることができません。大きな柵が発掘されたままの状態で見ることができません。また、日本最大級の舟形容器も展示しています。



石狩灯台

初点灯は1892年（明治25年）1月1日。北海道庁により、内陸部への水運のために重要な航路であった石狩川の河口に建設されました。当初の灯台は木造六角形で、白黒2色であり、使用された灯台レンズは「3面1層」の形状でありました。1908年（明治41年）には鉄造円形に建て替えられ、外観も白1色となりました。「現存する灯台」としては北海道最古になります。1957年（昭和32年）「喜びも悲しみも幾歳月」の舞台となった際に、現在の赤白2色に塗り替えられました。当時は「カラー映画」自体が珍しい時代なのでインパクトのある赤白に塗り替えたと言われています。この日は建築士の皆さんが参加するとの事で、ボランティアガイドさんが貴重な建築当時の図面（矩計図）を用意して下さり、参加者から歓声が上がりました。



（株）中島測量設計 代表取締役 中島量様



「グループワーク」

そして不動産事業を通したまちづくりについてお話し頂きました。

その後、参加者によるグループワークでは「建築士が考える石狩のミライ」と題して空き家対策をテーマにおもしろ法人カヤックの「プレストカード」を用いて討議し、最後にグループ毎にプレゼン発表をして頂きました。

参加者は各地建築士の他に、石狩商工会議所女性会、青年部、建設事業協会二世会、青年会議所、石狩市職員などの皆さんがご参加頂きました、多くの気づきと学びを頂いた、そんなまちづくりフォーラムになりました。



石狩市長 加藤龍幸様

午後からのフォーラムでは、お二方にご講演頂きました。まずは石狩市のまちづくりの現状と取組について、石狩市長 加藤龍幸様より「石狩市脱炭素先行地域」の概要説明とエネルギーの地産地消である「厚田マイクログリッドシステム」の説明、そして現存する空き家対策に関するプロジェクトなどをお話頂きました。

民間企業の取組として、（株）中島測量設計 代表取締役 中島量様より「～シアワセカナウまちづくり～」と題して、2006年に自身が取組んでこられた、地元藤女子大学とのコラボでピンクの発泡酒「CanaStory」開発に始まる数々の地域貢献事業、



「プレストカード」

北海道建築士会年間行事予定（予定）

3月	14日 第1回理事会 18日 全道青年委員会連絡会議 23日 定時総会	9月	1日2日 全道大会(北空知大会) 予定 一級・木造建築士学科試験合格者発表 10日予定 二級建築士設計製図試験
5月	18日 第2回理事会 20日 青年建築士の集い	10月	8日予定 一級建築士設計製図試験
6月	23日 支部長・支部事務局長合同会議	11月	27日28日 全国大会(静岡大会)
7月	2日予定 二級建築士学科試験 23日予定 一級・木造建築士学科試験	12月	15日 第4回理事会 予定 建築士試験設計製図合格者発表
8月	予定 二級建築士学科試験合格者発表 29日 第3回理事会		

【お知らせ】民間(七会)連合協定工事請負契約約款改正されます！

改正内容は、危険な盛土等の発生を防止するため建設発生土の搬出先等を明確化すること、並びに反社会的勢力排除のさらなる徹底を図るため暴排条項を充実させました。

1. 改正内容（新旧対照表）

⇒ <http://www.gcccc.jp/info/202301-1.pdf>

2. 約款改正日

令和5年（2023年）1月1日

3. 現行約款への対応

- ・現行約款を使用される場合には、発注者・受注者間において、工事請負契約の特約として、「変更合意書」を締結の上、ご使用できます。

変更合意書

⇒ <http://www.gcccc.jp/info/202301-2.pdf>

- ・現行約款の在庫が無くなるまでは、改正版を仕入れていたしませんので予めご了承くださいませようをお願いいたします。

※今後「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」「マンション修繕工事請負系約款」「リフォーム工事請負契約約款」も改正される予定（2月頃）です。

第13回 高校生の「建築甲子園」道予選

（公社）日本建築士会連合会主催の「建築甲子園」は、今年で13回目の開催になります。今年は、1校の応募があり北海道苫小牧工業高等学校校定時制課程

のタイトル「ふれあい広場・育児サポートセンター24h」を決定しました。

全国選手権の結果は、12月頃決定予定。



先生と生徒さん



応募作品

岩内支部

故 上野前支部長を偲んで

支部長
谷口 和人



今年1月の支部通常総会で役員改選が行われ、上野憲之前支部長の後任として支部長の職に就きました谷口です。また、副支部長をはじめとする各役員の方々も一部改選され、新体制で支部の事業を運営することになりました。よろしくお願いたします。

本年7月、前岩内支部長でありました上野憲之氏がご逝去されました。葬儀の際には高野会長をはじめ、岩内支部会員・賛助会員の方々よりお心遣いを頂戴いたしましたことにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

ここで故 上野憲之氏の建築士会での経歴をお知らせいたします。常議員(現理事)を二期4年、副支部長を五期10年務めた後、平成28年より岩内支部長を三期7年務めました。体調が優れないこともあり、本年1月の通常総会にて支部長を退任いたしました。温厚

な性格で自然と周りに人が集まるような、人望のある方でした。同業者として仲間であり良きライバルでもあり、お互いに切磋琢磨していました。また私個人としても、上野氏とは高校の同級生で3年間クラスメイトだったという縁もあり、昔から人となりを知っていたため、悲しみに打ちひしがれております。遺志を継ぎ、岩内支部を一層盛り上げていきたいと考えております。

猛威を振るうコロナ禍の中、例年とは異なり感染症予防対策を実施しながら岩内支部通常総会を開催することができました。活動報告はほとんどなく、新年度の議案承認を頂きました。例年は総会後に懇親会があるのですが、地域団体の懇親会が軒並み中止となっているため、残念ながら総会のみの実施となりました。早く交流の機会が持てることを祈るばかりです。

コロナ禍以前の例年の岩内支部の活動をお知らせいたします。年に2回程度の会員懇親会、建築士の日事業では

「バードハウスDIY体験会」があります。懇親会は減るが増えない会員の状況を打破するため、現会員の結束を高めています。「バードハウスDIY体験会」は地域の小学生を対象に、青年部を中心として行っており、加工済木材を釘で組み立てるだけの簡単なものですが、小学校低学年だと木材や釘、金槌を触る機会も少ないようで、同伴の親そっちのりで、真剣に制作しています。そんな子供たちの顔も3年も見ないと遠い記憶のようになってしまいましたが、来年こそは感染対策を徹底して行いたいと計画しています。



バードハウス体験会の様子

千歳支部

コロナ禍により失われた活動の再開へ

支部長
南雲 勇次



千歳支部で支部長を務めさせて頂いております南雲勇次と申します。2019年12月から始まったコロナ感染症により、世界的に未曾有の混乱を招く事となってしまいました。三年後の現在までコロナ感染症の影響が続いている事は想像すらできませんでした。千歳支部では2019年より建築士会活動として会員増強に取り組み、賛助会員の増強への取り組みをスタートさせました。当時の支部活動に対するアクティブメンバーは限られており、楽しい雰囲気作りを通じて会員の参加意欲向上を目指し賛助会員の増強を選択させていただきました。私が建築士会に入会した24年前は普段お会いできないような建築業界の先輩諸兄も多数参加

されており、支部活動やブロック活動を通じて親睦を図れることに充実感を感じていたことを今でも思い出します。2019年の会員拡大で賛助会員も10社増え23社となり、新たな会員同士の親睦活動にも期待した2019年ではありましたが、コロナ感染症の流行により全ての支部活動を中止しなければならぬ事態となってしまいました。2022年までの3年間、支部活動を中止してきたことは大きな損失であったと自分自身非常に重く受け止めています。依然としてコロナ感染症は収束せず、北海道においても多くの感染者が連日報告されております。しかしコロナ感染症との共生も広く認知されはじめ、2023年度に向けて新たな形での支部活動の再開に対する期待も膨らんできております。気持ち新たに支部活動を再開するにあたり、コロナ禍の中で旧態依然の状

態から脱却する事は必要不可欠であると思います。新たな支部活動の実施形態を会員同士で協議し、コロナ禍により失われた3年間を取り戻すべく千歳支部会員一同頑張っていく所存です。更に施工管理技士資格取得者へのアプローチとして技士会員が創設されたことは、非常に有効な会員拡大への道が開けたものと思います。2023年度は会員拡大に会員一同再度注力し、楽しく活発な千歳支部となるよう活動を進めたいと思います。多くの千歳支部会員が様々な地域で大変お世話になった2022年だったと思います。千歳支部を代表し北海道各地の建築士会会員の皆様に感謝御礼申し上げます。

誠に有難う御座いました。

また引き続き2023年度も千歳支部を宜しくお願致します。

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (12月)

◆第5回四役会議

(開催日) 1日(木)

- 1) 令和4年一般会計収支予算の流用(案)
- 2) 令和4年一般会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 3) 令和4年特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 4) 第44回全道大会(空知大会)事業報告及び収支決算(案)
- 5) 支部財政調整積立資産の取崩(案)
- 6) 令和5年一般会計事業計画及び収支予算(案)
- 7) 令和5年特別会計事業計画及び収支予算(案)
- 8) 第45回全道大会(北空知大会)事業計画及び収支予算(案)
- 9) 会誌等発送に伴う同梱物取扱要領の一部改定(案)
- 10) 令和5年定時総会の開催(案)
- 11) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)

◆第3回情報委員会

(開催日) 3日(土)

- 1) 令和4年事業報告及び令和5年事業計画・予算
- 2) 会誌「北海道建築士」
・令和5年3月以降の掲載記事を策定
- 3) その他

◆第5回理事会

(開催日) 9日(金)

- 1) 令和4年一般会計収支予算の流用(案)
- 2) 令和4年一般会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 3) 令和4年特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 4) 第44回全道大会(空知大会)の事業報告
- 5) 支部財政調整積立資産の取崩(案)
- 6) 令和5年一般会計事業計画及び収支予算(案)
- 7) 令和5年特別会計事業計画及び収支予算(案)
- 8) 第45回全道大会(北空知大会)事業計画及び収支予算(案)
- 9) 会誌等発送に伴う同梱物取扱要領の一部改定(案)
- 10) 令和5年定時総会
- 11) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)

◆第2回被災地応急支援委員会

(開催日) 10日(土)

- 1) 令和5年事業計画
- 2) ネットワークの登録者増強と整備
- 3) 各自治体と支部の協定締結推進
- 4) 委員会名称の変更
- 5) その他

本部の主な行事予定 (1月)

14日(土) 第1回青年委員会

関係機関等会議参加予定 (1月)

13日(金) 建築士会CPDプログラム評議会

19日(木) 連合会定例理事会(東京)

上記 高野会長

講習会・セミナーのご案内 (1月)

監理技術者講習

18日(水) 札幌市

基準法講習会

12日(木) 札幌市 26日(木) 帯広市

27日(金) 旭川市・根室市

CPD認定プログラム(12月認定)

◆中大規模木造設計セミナー

《日程及び会場》 2月22日(水)

大五ビル2階会議室(札幌市)

9:00~12:00 実現のための手法編

13:00~16:30 木造低コスト化編

《単位数》 実現のための手法編 3単位

木造低コスト化編 4単位

《上記問合せ先》

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

◆札幌支部設立70周年記念講演

「美しい日本の建築を、北海道から世界へ」

《日程及び会場》 1月26日(木) 16:30~17:30

ホテルガーデンパレス札幌(札幌市)

《単位数》 1単位

《上記問合せ先》

(一社)北海道建築士会札幌支部 TEL 011-232-1843

◆令和4年度現場代理人等合同研修会(オンライン)

《日程及び会場》 1月18日(水) 10:00~16:00

1月25日(水) 10:00~16:00

オンライン(ZOOM)にて実施

《単位数》 5単位

《上記問合せ先》

(一社)札幌建設業協会 TEL 011-261-6182

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



■視聴方法: 北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■1月パスワード: Kus027

編集後記

皆様、新年あけましておめでとうございます。新しい一年がスタートいたしました。2020年1月に日本で最初のコロナ患者が報告されてから3年が経ち、もうそろそろ日本国民も疲れてきているのではないのでしょうか。国には早く2類相当感染症から3類へ引き下げて頂きたいものです。

昨年は3年振りの全道大会空知大会が開催され、全ての行事を対面で行うことが出来ました。少しずつではありますが、北海道建築士会の活動も以前の姿を取り戻しつつあります。

昨年末の理事会にて令和5年度一般会計事業計画及び収支予算(案)が可決され、各委員会共新しい活動がスタートしています。情報委員会においては、従来と同じ①会誌「北海道建築士」の発行、②ホームページの運用、③会誌「北海道建築士(号外)」の発行を掲げており、会員の皆様へ情報提供を行っていきたくと思います。

情報委員会 担当常務理事 中原 茂人(苫小牧支部)

情報委員会委員長/森 勝利

副委員長/前田 繁・立花智亜喜

委員/今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌

村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.305号

印刷 令和4年12月/発行 令和5年1月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地

大五ビル

電話 (011) 251-6076番

URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎

〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目

電話 (011) 811-7151番